

# HiKOKI

## 取扱説明書

### 集じん機

8 L RP 80YB (乾湿两用)

8 L RP 80YD (乾式)

25 L RP 250YD (乾式)

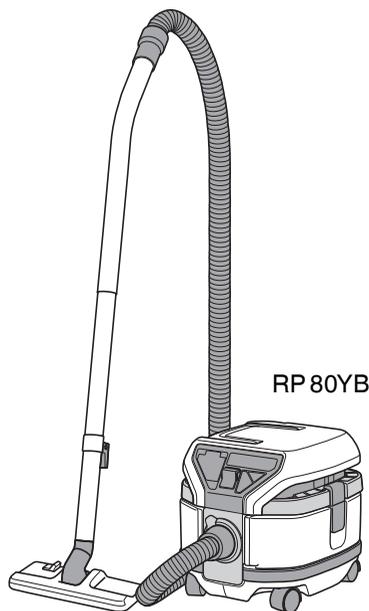
### 用途

- 作業場、その他の一般清掃
- 電動工具での木材などの研削、切断、穴あけ作業時に発生する粉じんの集じん

### (乾湿両用のみ)

- 床にこぼした水などの液体吸収

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに	集じん機の安全上のご注意……………	1
	本製品の使用上のご注意……………	3
	各部の名称……………	5
	仕様……………	6
	標準付属品……………	7
	別売部品……………	8

使い方	ご使用前の準備・点検……………	9
	ポリ袋の取付け……………	11
	フィルタの取付け・確認……………	13
	ホース(床用吸口他)の接続……………	15
	電動工具との接続……………	15
	連動用コンセント……………	17
	スイッチの操作……………	19
	LEDライトの使い方……………	20
	集じんする……………	21
	フロート機構……………	22
	フィルタのちり落とし……………	23
粉じん(水)を捨てる……………	24	
紙フィルタ(別売部品)の取付け……………	26	

その他	運搬・収納……………	27
	保守・点検……………	29
	ご修理のときは……………	裏表紙

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注** の意味について

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 集じん機の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

### **⚠警告**

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**  
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
  - 作業場は十分に明るくしてください。
  - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **使用電源は、銘板に表示してある電圧・周波数で使用してください。**  
表示以外の電源を使用すると、火災・感電や故障の原因になります。
- ④ **子供を近づけないでください。**
  - 作業員以外、集じん機やコードに触れさせないでください。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **作業に合った集じん機を使用してください。**  
指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑥ **コードを乱暴に扱わないでください。**
  - コードを持って集じん機を運んだり、コードを引いてコンセントから抜かないでください。
  - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。  
また、重い物を載せたり、挟み込んだりしないでください。

## 警告

- ⑦ **集じん機は、注意深く手入れをしてください。**
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
  - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
  - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
- ⑧ **次の場合は、集じん機のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- 使用しない、または、準備・調整・保守・点検・修理する場合。
  - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。
- ⑨ **不用意な始動は避けてください。**
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
  - 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑩ **油断しないで注意して作業を行ってください。**
- 集じん機を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など注意して慎重に作業してください。
  - 集じん機からはなれて作業する場合は、集じん機の運転状況（異常音、粉じん吹き出し、発煙など）に注意しながら作業してください。
  - 常識を働かせてください。
  - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑪ **損傷がないか点検してください。**
- 使用前に、機体やその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
  - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
  - 損傷した機体やその他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - スイッチで始動および停止操作のできない集じん機は、使用しないでください。
- ⑫ **集じん機の修理は、専門店で依頼してください。**
- この集じん機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
  - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。  
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

# 本製品の使用上のご注意

先に集じん機として共通の注意事項を述べましたが、本製品について、次に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠警告

- ① **必ずアース(接地)してください。**  
故障や漏電のとき、感電の恐れがあります。(詳細は P.9「アース(接地)、漏電しゃ断器の確認」を参照してください。)
- ② **連動コンセントに接続できる電動工具の消費電力は強運転時 100 ~ 285 W、中運転時 100 ~ 760 W、弱運転時 100 ~ 1,050 W までです。**  
上記を超える消費電力の電動工具を連動コンセントに接続して使用すると、定格以上の電流が流れ、連動回路や電源プラグなどの故障やけがの原因になります。
- ③ **定格 15 A 以上のコンセントを使用してください。**  
他の器具と併用する場合、下記(1) ~ (3)の合計がコンセントの定格電流を超えないようにしてください。異常発熱による火災の原因になります。
  - (1) 本製品の定格電流
  - (2) 連動コンセントに接続している電動工具の定格電流
  - (3) コンセントを併用する器具の定格電流
- ④ **以下の物は吸い込まないでください。**
  - 金属の研削、切断作業時に発生する火花。
  - 火のついた、たばこの吸いがらなど高温度の物。
  - 引火性物質(ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油、塗料など)、爆発性物質(ニトログリセリンなど)、発火性物質(アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、チタン、赤リン、黄リン、セルロイドなど)。
  - 釘、カミソリの刃など鋭利な物。
  - 木片、金属、石、ひもなど。
  - セメント粉・トナーなど固化する物や、金属粉・カーボン粉など導電性の微粉じん。
  - 油、熱湯、薬液、洗剤など発泡性のある液体。
  - 水、油などの液体。(乾式：RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合)  
火災やけがの原因になります。
- ⑤ **フィルタは正しくセットして使用してください。**  
フィルタをはずしたまま使用したり、セット位置を誤ったまま使用したり、破れたフィルタを使用したりしないでください。  
モーターが故障する原因になります。
- ⑥ **機体や電源プラグ、連動コンセントに水や油などをかけたりしないでください。**  
この機体は防水構造ではないため、感電や故障の原因になります。

## ⚠ 警告

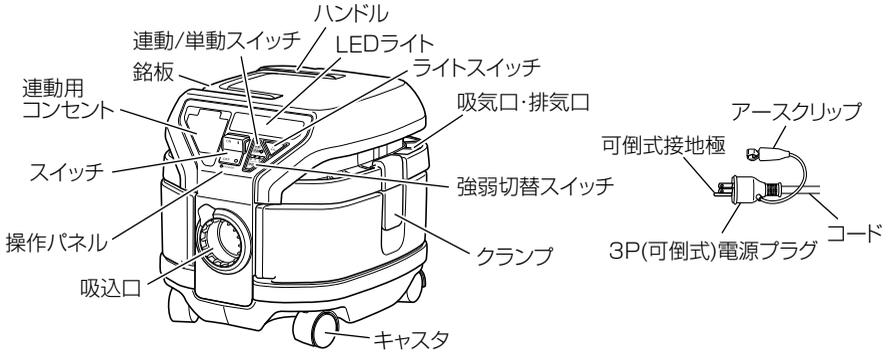
- ⑦ 機体の吸入口・吸気口・排気口をふさいだ状態で使用しないでください。  
モーターの温度が異常に上昇し、部品の変形やモーター故障などの原因になります。
- ⑧ フロートが作動したまま、またホース、吸口などに異物が詰まったまま運転しないでください。  
モーターの温度が異常に上昇し、部品の変形やモーターが故障する原因になります。
- ⑨ 機体を倒したり、横倒しの状態で使用しないでください。  
感電や故障の原因になります。
- ⑩ 転倒などによる機体の変形、破損防止のため、機体は静かに移動してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑪ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑫ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑬ 延長コードを使用するときは、アース線を備えた3心キャプタイヤケーブルを使用してください。  
アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。
- ⑭ この機体は屋内用です。決して屋外で使用しないでください。  
絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

### ○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。  
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。  
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

# 各部の名称

【イラストは RP 80YB です】



# 仕 様

形 名	RP 80YB	RP 150YB	RP 80YD	RP 150YD	RP 250YD	RP 350YA	
使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V						
消費電力	1,140 W						
モーター	単相直巻整流子モーター						
絶縁構造	一重絶縁						
用途	乾湿両用			乾式専用			
集じん容量	8 L	15 L	8 L	15 L	25 L	35 L	
吸水容量 <sup>*1</sup>	6 L	12 L	—				
フィルタの種類	布フィルタ		粉じん用フィルタ (プレフィルタ付)				
電 流	強 12.0 A 中 7.0 A 弱 3.9 A						
連動用コンセント	強 100 W ~ 285 W 中 100 W ~ 760 W 弱 100 W ~ 1,050 W (接続できる電動工具の消費電力)						
最大風量	強 3.5 m <sup>3</sup> /min 中 1.8 m <sup>3</sup> /min 弱 1.1 m <sup>3</sup> /min						
最大真空度	強 22.0 kPa { 2,240 mm 水柱 } 中 7.0 kPa { 710 mm 水柱 } 弱 2.7 kPa { 275 mm 水柱 }						
ホース (内径×長さ)	φ 38 mm × 2 m			φ 28 mm × 5 m			
外径寸法	幅	331 mm	334 mm	331 mm	334 mm	414 mm	390 mm
	高さ	334 mm	400 mm	334 mm	400 mm	420 mm	665 mm
	奥行	364 mm	366 mm	364 mm	366 mm	431 mm	469 mm
質 量 <sup>*2</sup>	7.4 kg	7.9 kg	7.8 kg	8.3 kg	9.6 kg	10.0 kg	
コ ー ド	アースクリップ付 3 心ケーブル 5 m						

※1: 機体を水平に設置した静水の状態、および布フィルタが乾いている状態での容量

※2: コード、付属品を除く

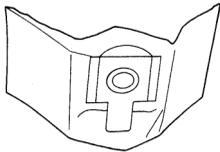
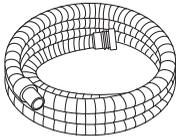
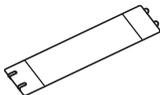
# 標準付属品

部 品 名	個数	RP 80YB RP 150YB	RP 80YD / RP 150YD RP 250YD / RP 350YA
① ホース (内径φ38 × 長さ2 m) (一般清掃用)	 1本	○	×
② ホース (内径φ28 × 長さ5 m) (電動工具との接続用)	 1本	×	○
③ パイプホルダ	 1個	○	×
④ ストレートパイプ	 1本	○	×
⑤ ベンドパイプ	 1本	○	×
⑥ 床用吸口	 1個	○	×
⑦ すき間用吸口	 1個	○	×
⑧ ポリ袋	 5枚	○	○
⑨ ジョイント (A)	 1個	○	○
⑩ ジョイント (B)	 1個	○	○
⑪ ジョイント (C)	 1個	○	×
⑫ アダプタ (ゴム)	 1個	○	○
⑬ D 25 アダプタ (38 mm 用) (マキタ電動工具との接続用)	 1個	×	○
⑭ D 25 アダプタ (26 mm 用) (マキタ電動工具との接続用)	 1個	×	○
⑮ ホースバンド	 5個	×	○
⑯ D 38 アダプタ (38 mm 用) (マキタ電動工具との接続用)	 1個	○	×
⑰ D 38 アダプタ (26 mm 用) (マキタ電動工具との接続用)	 1個	○	×

# 別売部品

(別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

最新の情報は、弊社ホームページ、または総合カタログを参照してください。

部 品 名	用 途
紙フィルタ (5枚入り) 	紙フィルタごと捨てることで、清潔にごみ捨てができます。 水は吸引できません。 RP 80YB、RP 150YB でサイディング粉、石材粉など細かい粉じんを集じんする際は、布フィルタと併用します。
ナイロンフィルタ 	水、湿った粉じんを吸引するとき使用します。 (乾湿両用：RP 80YB、RP 150YB のみ使用可)
ホース (内径φ38×長さ5m) 	内径が太いため、作業場、その他の一般清掃するとき使用します。 電動工具と接続しても使用できます。
ホースカバーセット 	ホースと電動工具のコードを包み込み、物に引っ掛かりにくくします。
ホースバンド (ゴム製) (5個入り) 	ホース (内径φ28) と電動工具のコードを束ねて、物に引っ掛かりにくくします。
ホースバンド (呼径：φ38、φ60、φ75) 	集じんアダプタを使用する場合、機体のアダプタと接続するため使用します。
各種電動工具との接続部品	集じんアダプタやジョイント等については、別紙「集じん機と各種電動工具の接続」をご覧ください。

# ご使用前の準備・点検

## ●アース（接地）、漏電しゃ断器の確認

### ⚠警告

アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがあるので、絶対に取付けないでください。

使用にさきだち、電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

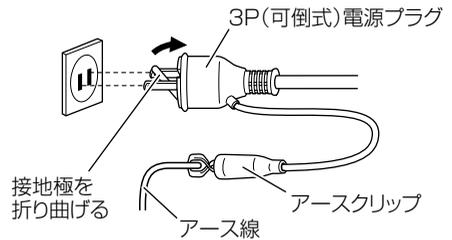
**注** ●プラグのアースクリップや接地極、アース線は、異常のないことを確認してから使用してください。

テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、プラグの接地極またはアースクリップと機体の金属外枠との間の導通を確認してください。

●地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要です。お近くの電気工事店に相談してください。

アースクリップ付 3P（可倒式）電源プラグはアース付（3ピン）コンセントに直接さし込むことでアースクリップによるアースは不要です。

アース極のない 2 極コンセントに接続するときは、右図のように接地極を折り曲げてコンセントにさし込み、アースクリップをアース線に接続してください。



## ●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードをご使用ください。右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

必ずアース（接地）できる接地用の1心をもつ3心キャブタイヤケーブルをお使いください。



**警告**

延長コードは損傷のない物を用意してください。

コードの太さ (mm <sup>2</sup> ) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
3.5	15
5.5	25

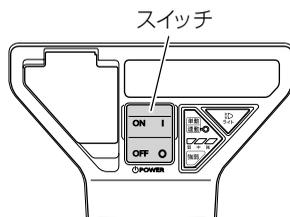
## ●使用電源の確認

必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

## ●スイッチ「OFF」の確認

スイッチが入っているのを知らずに電源プラグをコンセントにさし込むと、不用意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

スイッチは、「ON」側を押すと運転し、「OFF」側に戻すと停止します。電源プラグさし込み時は、スイッチが「OFF」になっていることを必ず確認してください。



## ●コンセントの確認

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などに相談してください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

# ポリ袋の取付け (ポリ袋なしでもご使用できます)

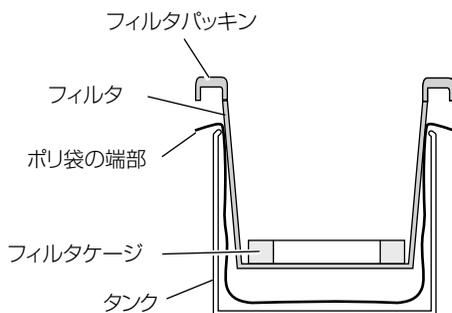
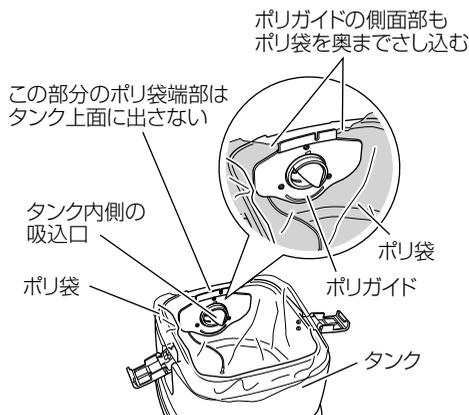
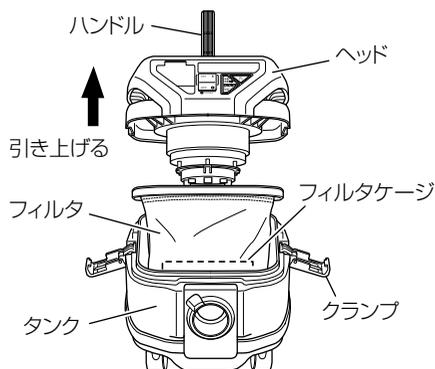
## RP 80YB、RP 150YB の場合

**1** クランプ (2 個) をはずし、ハンドルを持ってヘッドを引き上げ、タンクから取りはずします。タンク内のフィルタ、フィルタケースを取りはずしてください。

**2** タンク内側とポリガイドの間に付属のポリ袋をさし込みます。まず下側にさし込み、次に側面の順にさし込んでください。

**3** ポリ袋をタンクの内面に沿って広げた後、ポリ袋の端部をタンクの外に引き出します。P.13「フィルタの取付け・確認」の手順に従い、フィルタ、フィルタケースを入れてください。このとき、フィルタパッキングがポリ袋をしっかりと挟み込むように取付けてください。

- 注**
- 市販品のポリ袋は、45 L (幅 650 mm × 深さ 800 mm) が使用可能です。ただし厚さ 0.04 mm 以上の物をご使用ください。
  - 吸込口部のポリ袋の端部は、タンク上面から出さないでください (右図参照)。タンク上面からポリ袋の端部をすべて出すと、吸込口がふさがれ、集じできません。



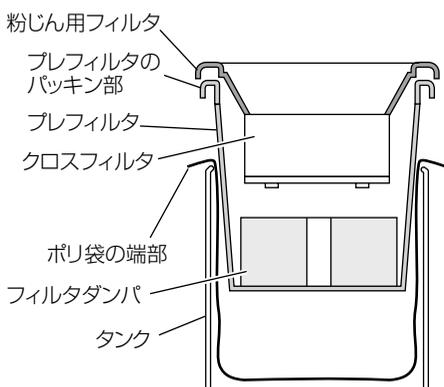
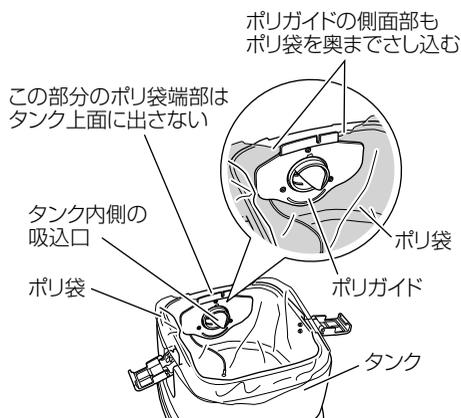
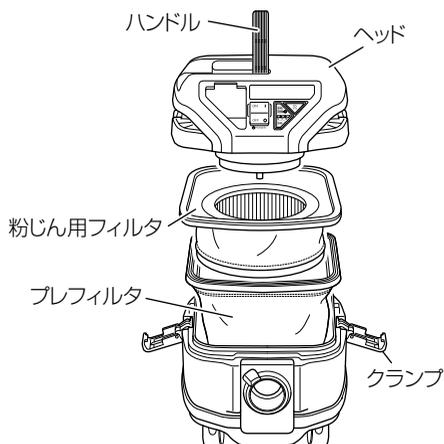
## RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合

**1** クランプ(2個)をはずし、ハンドルを持ってヘッドを引き上げ、タンクから取りはずします。タンク内の粉じん用フィルタ、プレフィルタを取りはずしてください。

**2** タンク内側とポリガイドの間に付属のポリ袋をさし込みます。まず下側にさし込み、次に側面の順にさし込んでください。

**3** ポリ袋をタンクの内面に沿って広げた後、ポリ袋の端部をタンクの外に引き出します。P.14「フィルタの取付け・確認」の順に従い、プレフィルタ、粉じん用フィルタを入れてください。このとき、プレフィルタのパッキン部がポリ袋をしっかりと挟み込むようプレフィルタを取付けてください。

- 注** ●市販品のポリ袋は、45 L (幅 650 mm × 深さ 800 mm) が使用可能です。ただし厚さ 0.04 mm 以上の物をご使用ください。
- 吸込口部のポリ袋の端部は、タンク上面から出さないでください(右図参照)。  
タンク上面からポリ袋の端部をすべて出すと、吸込口がふさがれ、集じできません。



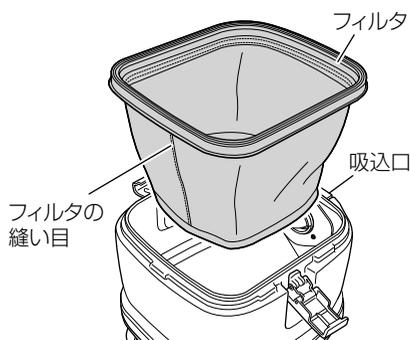
# フィルタの取付け・確認

## ⚠警告

- フィルタは、必ず取付けてください。  
モーターが故障する原因になります。
- RP 80YB、RP 150YB の場合、サイディング粉、石材粉など細かい粉じんを集じんする際は、別売部品の紙フィルタを使用してください。詳細は、P.26「紙フィルタの取付け」を参照してください。
- RP 80YB、RP 150YB の場合、付属の布フィルタは乾湿両用フィルタですので、水などの液体を吸水するときも取付けてください。ただし、別売部品のナイロンフィルタを使用するときは、付属の布フィルタは取付けしないでください。
- RP 80YB、RP 150YB の場合、付属の布フィルタで繰り返し吸水すると、吸水量が著しく低下します。  
繰り返し大量の吸水をする場合は、別売部品のナイロンフィルタを使用してください。

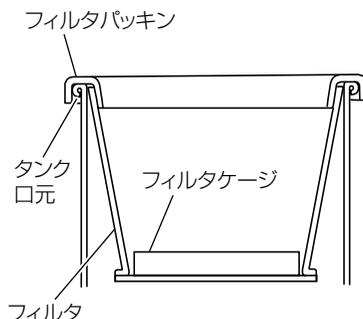
### RP 80YB、RP 150YB の場合

- 1 フィルタの縫い目を吸込口の反対側になるように組み込みます。



- 2 フィルタパッキンがタンク口元にかかっていることを確認してください。

- 3 フィルタの底部にフィルタケースが入っていることを確認してください。

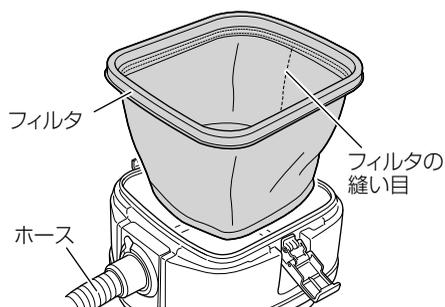


- 注** ナイロンフィルタ（別売部品）を取付ける場合、上記フィルタの取付け・確認を参照してください。  
付属の布フィルタは取付けしないでください。

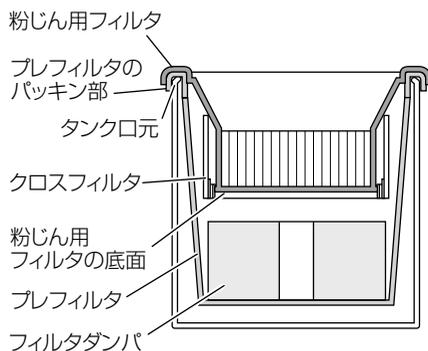
## RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合

**注** RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合、水の吸水ができません。

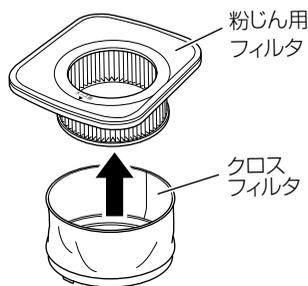
**1** フィルタの縫い目をホースの反対側になるように組み込みます。



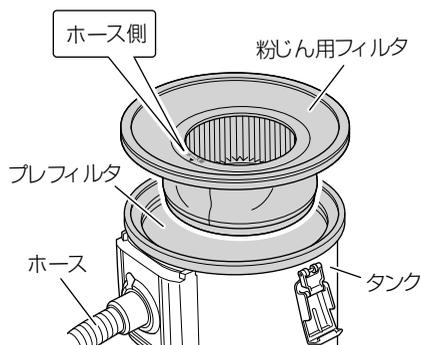
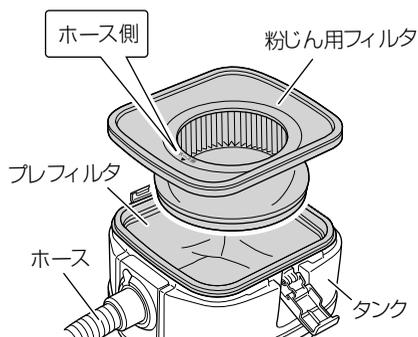
**2** プレフィルタのパッキン部がタンク口元にかかっていることを確認してください。  
次にプレフィルタ底にフィルタダンパを入れてください。



**3** 粉じん用フィルタにクロスフィルタを表示された矢印方向からさし込み、取付けてください。



**4** 「ホース側」の表示に方向を合わせて、粉じん用フィルタを入れます。



RP 350YA の場合

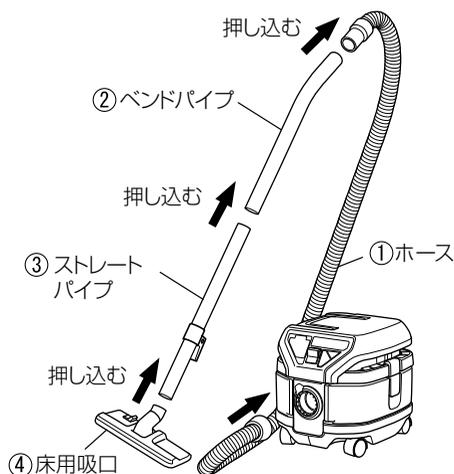
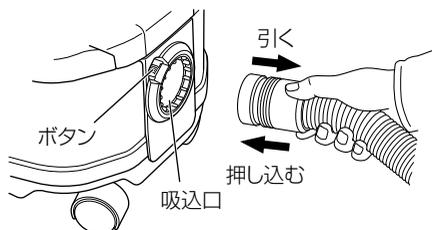
# ホース（床用吸口他）の接続

## RP 80YB、RP 150YB の場合のみ

掃除機として一般清掃作業する場合は、ホースに付属のベンドパイプ、ストレートパイプ、床用吸口を接続して使用してください。

**1** 付属のホース（内径φ38×長さ2m）をタンクの吸込口に「カチッ」と音がするまで押し込み、接続します。  
ホースを取りはずす場合は、吸込口のボタンを押しながらホースを引いてはさずしてください。

**2** ①ホース（内径φ38×長さ2m）  
②ベンドパイプ  
③ストレートパイプ  
④床用吸口  
の順に、矢印方向に押し込んで接続します。  
用途に応じて、すき間用吸口を取付けることもできます。



# 電動工具との接続

## ⚠ 警告

•表中の適用形名で下記の消費電力を超える電動工具は、本機の連動用コンセントに接続しないでください。

定格以上の電流が流れ、連動回路や電源プラグなどの故障やけがの原因になります。また、この機体の電源プラグを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

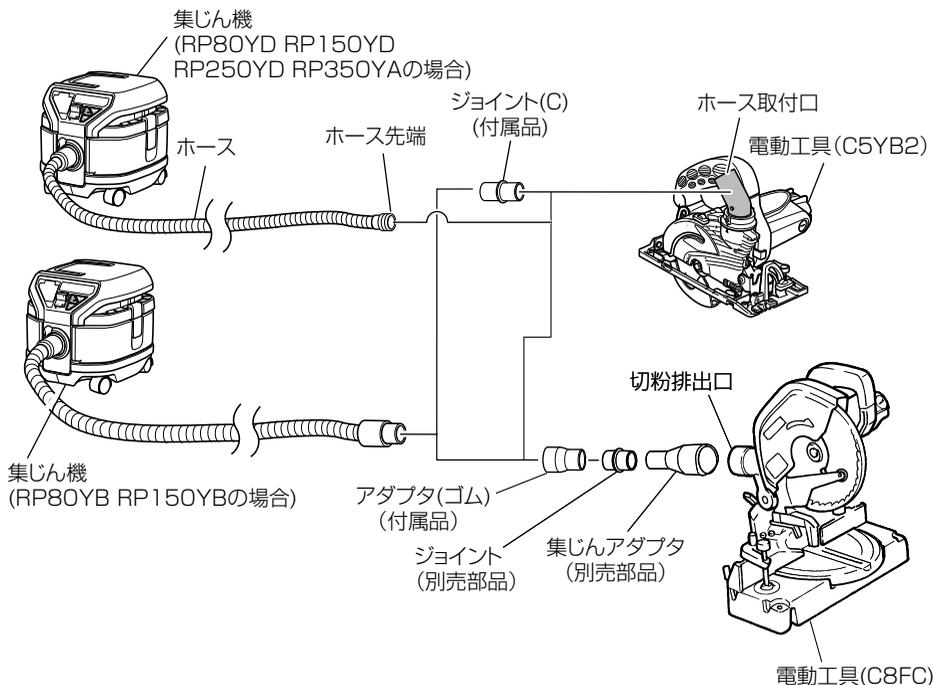
この機体を「強」運転する場合…電動工具の消費電力 100～285 W まで

この機体を「中」運転する場合…電動工具の消費電力 100～760 W まで

この機体を「弱」運転する場合…電動工具の消費電力 100～1,050 W まで

•火花を発生する作業の集じんはできません。

付属のジョイントやアダプタで、ホースを電動工具へ接続します。  
 接続する電動工具によって、さらに別売部品の集じんアダプタやジョイント等が必要となります。詳しくは、別紙「集じん機と各種電動工具の接続」をご覧ください。



## ● ホースバンドの取付け

### RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合のみ

電動工具と接続して使用する場合は、ホースとコード(電動工具用)がからまないよう、付属のホースバンドで固定してください。

約 1 m の間隔で結束してください。



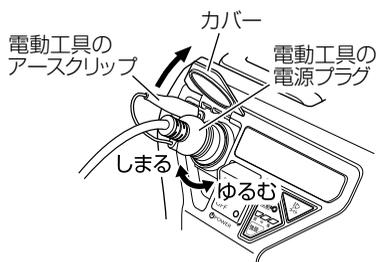
# 連動用コンセント

## ⚠ 警告

- 連動用コンセントには、この機体のスイッチ、連動 / 単動スイッチの位置にかかわらず、電圧がかかります。電動工具の電源プラグを連動用コンセントにさし込む場合、電動工具のスイッチが切れていることを確認してください。  
電動工具のスイッチが入っているのを知らずに電源プラグを連動用コンセントにさし込むと不用意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。
- 下記の消費電力を超える電動工具は、本機の連動用コンセントに接続しないでください。  
定格以上の電流が流れ、連動回路や電源プラグなどの故障やけがの原因になります。  
また、この機体の電源プラグを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。  
この機体を「強」運転する場合…電動工具の消費電力 100 ~ 285 W まで  
この機体を「中」運転する場合…電動工具の消費電力 100 ~ 760 W まで  
この機体を「弱」運転する場合…電動工具の消費電力 100 ~ 1,050 W まで
- 電動工具が一重絶縁の場合は、電動工具のアースクリップを必ずアース端子に接続してください。(アースクリップ付 2P 電源プラグの場合)。  
アースクリップをアース端子に接続しないと感電の恐れがあります。
- 電源プラグに抜け止めがかかっている状態で、コードを引かないでください。  
電源プラグを左に回し、抜け止めをはずしてから電源プラグを抜き取ってください。

- 1** カバーを持ち上げ、電動工具の電源プラグを連動用コンセントにさし込み、右に回します。回らなくなった位置で、電源プラグの抜け止めがかかります。電源プラグを抜く場合は、左に回してから引き抜いてください。

**1 2**

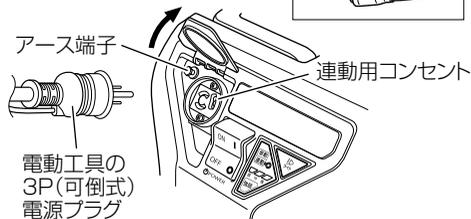


- 2** 電動工具が一重絶縁品のアースクリップ付 2P 電源プラグの場合は、電動工具のアースクリップを必ずアース端子に接続してください。

**3**



- 3** 電動工具が一重絶縁品の 3P(可倒式)電源プラグの場合は、接地極端子を伸ばしてから連動用コンセントにさし込み、右に回してください。

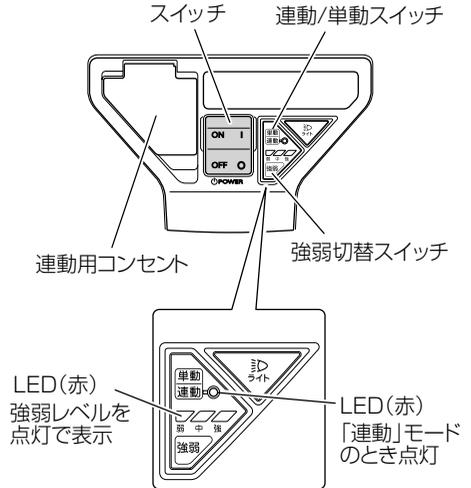


- 注** 連動用コンセントに巻線トランスが組み込まれている製品を接続すると、機体が約 5 秒間連動しますが、故障ではありません。

# スイッチの操作

## 電動工具と連動して運転する

- ① スイッチを「ON」側に押しします。
- ② 連動 / 単動スイッチを押して、「連動」モードに設定します。  
(「連動」モードのとき、LED(赤)が点灯)
- ③ 強弱切替スイッチを押して、吸込力を切り替えます。  
接続する電動工具の消費電力に合わせて「強」「中」「弱」を選択します。  
(強弱レベルは、LED(赤)が点灯して表示)
- ④ 接続した電動工具のスイッチの「ON」/「OFF」操作で、この機体も連動して運転・停止します。  
なお、電動工具のスイッチを切った後も、ホース内にたまった粉じんを吸い込むために機体は数秒間運転してから停止します。



## 単動で運転する

- ① スイッチを「ON」側に押しします。
- ② 連動 / 単動スイッチを押して、「単動」モード (LED 消灯) を選択します。
- ③ 強弱切替スイッチを押し、用途に合わせて「強」「中」「弱」を選択します。
- ④ 停止させるときは、スイッチを「OFF」側に戻します。

**注** 本機は、メモリー機能を備えています。一度「OFF」側にした後、次にスイッチを「ON」にすると、連動 / 単動スイッチおよび強弱切替スイッチはスイッチを「OFF」にしたときの状態で復帰します。

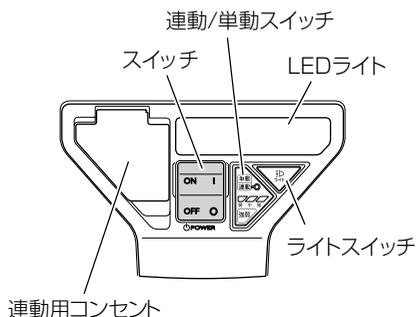
# LED ライトの使い方

スイッチが「ON」側の状態で、ライトスイッチを押すとLEDライトが点灯・消灯します。

また、連動/単動スイッチが「連動」モードに設定されていれば、本機を稼働させない状態でもライトスイッチの操作で点灯・消灯ができます。

## ⚠️ 注意

LEDライトをのぞきこんで、直接ライトの光を目にあてないでください。LEDライトの光が連続して目に当たると目を痛める原因になります。



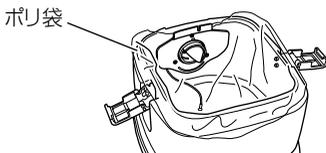
# 集じんする

## ⚠ 警告

- フィルタは、必ず取付けてください。モーター損傷の原因になります。
- ヘッド上面を踏み台にしたり、座ったりしないでください。急に機体が動き出し、転倒するなど、けがの原因になります。
- 下記の消費電力を超える電動工具は、本機の連動用コンセントに接続しないでください。  
定格以上の電流が流れ、連動回路や電源プラグなどの故障やけがの原因になります。  
また、この機体の電源プラグを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。  
この機体を「強」運転する場合…  
電動工具の消費電力 100 ~ 285 W まで  
この機体を「中」運転する場合…  
電動工具の消費電力 100 ~ 760 W まで  
この機体を「弱」運転する場合…  
電動工具の消費電力 100 ~ 1,050 W まで
- 粉じんの多い作業では、防じんマスク、保護メガネを使用してください。

## 1 ポリ袋を取付ける

必要に応じ、ポリ袋を取付けてください。  
(P.11「ポリ袋の取付け」参照)

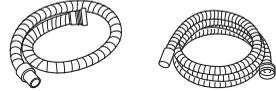


## 2 フィルタを確認する

タンク内に正しく取付けてあることを確認します。  
(P.13「フィルタの取付け・確認」参照)

## 3 ホースを電動工具へ接続する

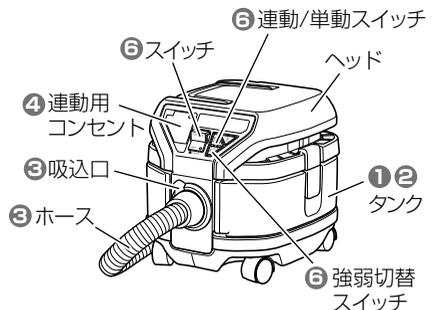
• タンクの吸込口に、付属のホースを接続します。  
(P.15「ホースの接続」参照)



• 付属のアダプタと必要に応じて別売の集じんアダプタやジョイントで、ホースを電動工具へ接続します。  
(P.15「ホースの接続」参照)  
(P.15「電動工具との接続」参照)

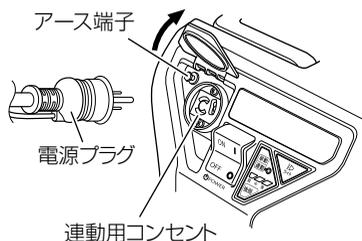


**注** ホースの取扱いはていねいにしてください。ホースを無理に曲げたり、踏みつけたり、ホースを引いて集じん機を移動したりしないでください。また、ホースを折り曲げたまま収納しないでください。ホースの変形などの原因になります。



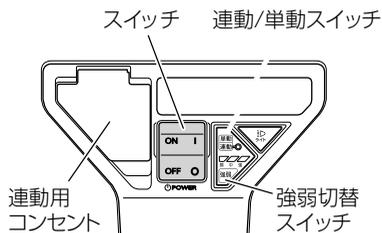
## 4 連動用コンセントに接続する

- 電動工具の電源プラグをさし込み、右に回して抜け止めをかけます。
- アースクリップ付 2P 電源プラグの場合は、アースクリップをアース端子に接続してください。(P.17「連動用コンセント」参照)



## 6 モードを選択し、運転・停止する

- スイッチの「ON」側を押します。
- 連動 / 単動スイッチを押してモードを選択します。
- 強弱切替スイッチを押して、強弱レベルを選択し運転します。「OFF」に戻すと運転を停止します。



## 5 電源プラグをコンセントにさし込む

- 注** 「連動」モードのときは、ホース内の粉じんを吸い込むため、電動工具のスイッチを切った後も機体は数秒間運転してから停止します。

## フロート機構

RP 80YB、RP 150YB の場合のみ

### ⚠ 警告

- フロートが働いたままで、運転を続けしないでください。  
モーターの温度が異常に上昇し、部品の変形やモーターが故障する原因になります。
- 洗剤など発泡性の液体や泡を吸い込ませないでください。  
フロートが働く前に排気口から泡が吹き出します。そのまま使用すると、感電や故障の原因になります。

この機体には、一定量以上の水を吸い込んだ場合に、モーター内に水が入るのを防ぐフロート機構が付いています。

フロートが作動して、水を吸い込まないときは、速やかにスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、タンク内の水を捨ててください。

# フィルタのちり落とし

RP 80YB、RP 150YB の場合

## ⚠ 警告

- 必ずスイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 粉じんが舞い上がることがありますので、防じんマスク、保護メガネを使用してください。

## ⚠ 注意

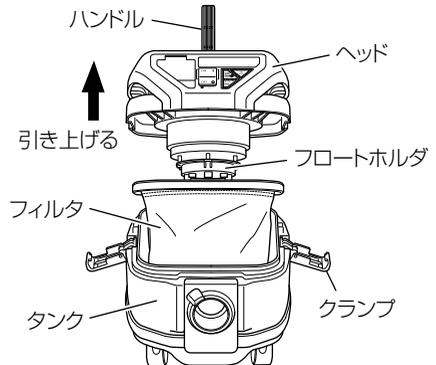
粉じんが満杯になっていると吸込力が低下しますので、タンク高さの半分程度を目安に、粉じんは早めに捨ててください。

運転中に吸込力が低下した場合、フィルタのちり落としをしてください。

**1** クランプ(2個)をはずし、ハンドルを上方へ引き上げ、ヘッドを取りはずします。

**2** フィルタがタンクに組み込まれた状態で、フィルタの内側面を数回たたいて付着した粉じんを落とします。吸込力が回復します。

**3** ヘッド、クランプを元の位置に取り付けてください。



RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合

スイッチを「OFF」にするたびに、ちり落としされる機構となっています。作業途中で吸い込みが悪くなったときは、一度スイッチを「OFF」にしてください。再度作業を開始しても吸い込みが回復しないときは、粉じんが一杯になっていますので、P.24「粉じん(水)を捨てる」の手順に従って粉じんを捨ててください。

# 粉じん（水）を捨てる

## ⚠ 警告

- 必ずスイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 乾湿両用の場合、タンク内に液体が入ったまま機体を横倒しにすると、モーター部、スイッチ部に液体が入り、感電やモーターが故障の原因になります。
- 粉じんが舞い上がることがありますので、防じんマスク、保護メガネを使用してください。

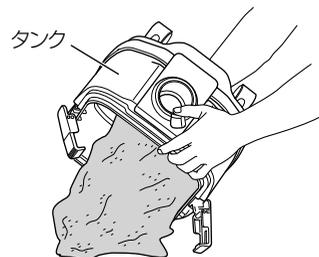
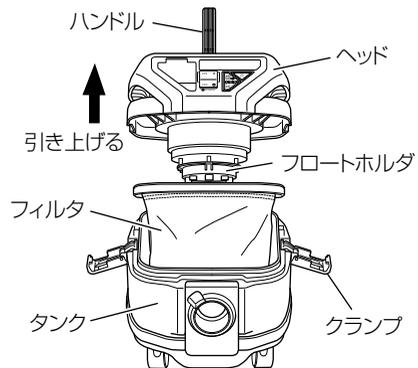
## ⚠ 注意

- タンク、フィルタ、ヘッドに強い衝撃を与えないでください。変形、破損の原因になります。
- 使用後は毎回、粉じんを捨てるようにして、機体、フィルタなどを常に清潔に保ってください。吸込力の低下やモーターの故障、悪臭発生やさびの原因になります。
- タンク内の粉じんを捨てるときは、クランプを持たないでください。クランプが破損する原因になります。

- 注**
- 粉じんのたまったポリ袋をタンクから取り出すときは、タンク内の突起部に引っ掛けないようにポリ袋を取り出してください。ポリ袋が破れる原因になります。
  - ポリ袋には、粉じんをためすぎないでください。ポリ袋が破れる原因になります。
  - ヘッドやタンクに付属品（パイプ、吸口等）をさし込んだまま機体を倒さないでください。各部の破損の原因になります。

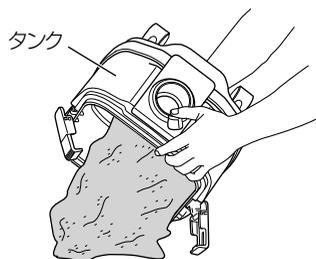
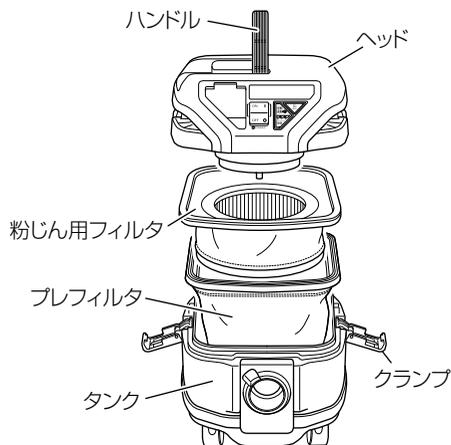
## RP 80YB、RP 150YB の場合

- 1** クランプ（2 個）をはずし、ハンドルを上方へ引き上げ、ヘッドを取りはずします。
- 2** フィルタの内側面を数回軽くたたいて、フィルタに付着した粉じんを落とします。次にタンクからフィルタとフィルタケースを取りはずします。
- 3** タンクを倒し、粉じんを捨てます。
- 4** フィルタ、フィルタケース、ヘッド、クランプを元の位置に取付けてください。



## RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合

- 1** クランプ(2個)をはずし、ハンドルを上方へ引き上げ、ヘッドを取りはずします。
- 2** 粉じん用フィルタを取り出し後、プレフィルタの内側面を数回軽くたたいて、付着した粉じんを落とします。  
次にタンクからプレフィルタを取り出します。
- 3** タンクを倒し、粉じんを捨てます。
- 4** 粉じん用フィルタ、プレフィルタを取付けます。  
次に、ヘッド、クランプを元の位置に取付けてください。  
(P.11「ポリ袋の取付け」参照)  
(P.13「フィルタの取付け・確認」参照)



# 紙フィルタ（別売部品）の取付け

## ⚠ 警告

- 必ずスイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  - 紙フィルタを使用するときは、付属の布フィルタと併用してください。  
(乾式：RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合、付属の粉じん用フィルタ、プレフィルタと併用してください。)
- 万一、紙フィルタが破損したとき、モーターに粉じんが入り、異音や異常発熱による火災の原因になります。

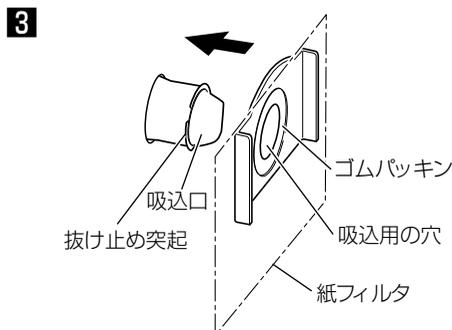
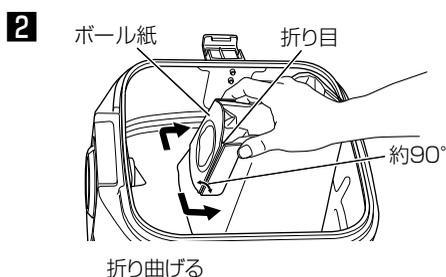
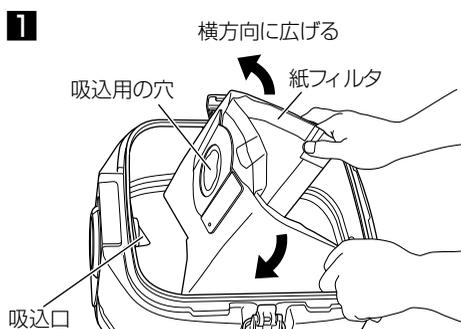
**1** 紙フィルタの吸込用の穴がタンクの上側になるよう、紙フィルタを横方向に広げます。

**2** 機体に装着する前に、ボール紙に付いている2か所の折り目を矢印の方向へ約90°折り曲げます。

**3** 紙フィルタの吸込用の穴を機体の吸込口に合わせます。  
図の矢印方向へ、紙フィルタのボール紙が吸込口にある抜け止め突起より奥側になるよう、しっかりとさし込んでください。

## ⚠ 注意

紙フィルタ使用時は、水などの液体、湿った粉じんを吸わせないでください。破ける原因になります。



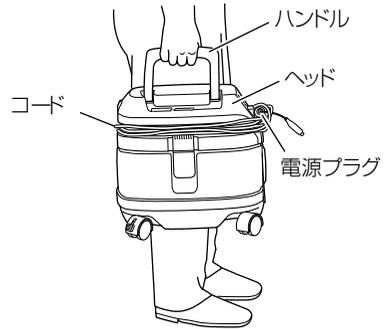
# 運搬・収納

## ● ハンドルの使い方・電源コードの収納方法

運搬・移動する場合は、右図のようにヘッド部のハンドルを持って行きます。ハンドルを使用しない場合は、ヘッド部に収納しておいてください。

コードはヘッド下部に巻き付けて収納できます。巻き付けたコードの内側に電源プラグを引っ掛けてください。

機体を運転する場合は、巻き付けたコードをすべてほどいてください。

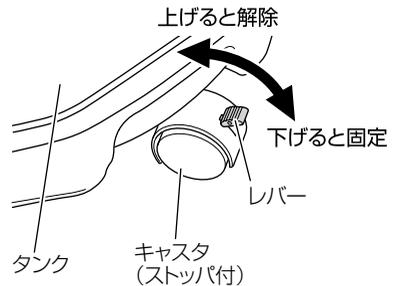


## ● キャスタの固定・解除

キャスタ（ストッパ付）のレバーを下げると車輪の回転が固定されます。車輪の固定を解除する場合は、レバーを上げます。機体を収納しておく場合、あるいは掃除の途中で作業を中断する場合、キャスタを固定すると機体の動き止めができて便利です。

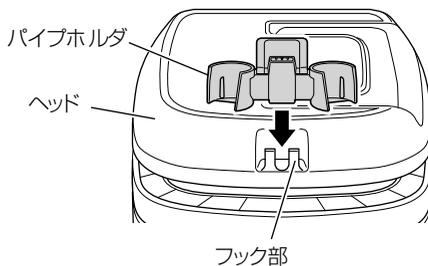
**注** 機体を移動する場合は、キャスタの固定が解除されていることを確認してください。

キャスタの破損の原因になります。

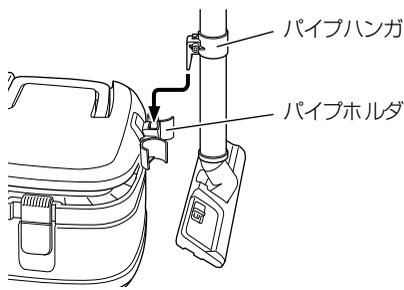


## ●機体を収納する

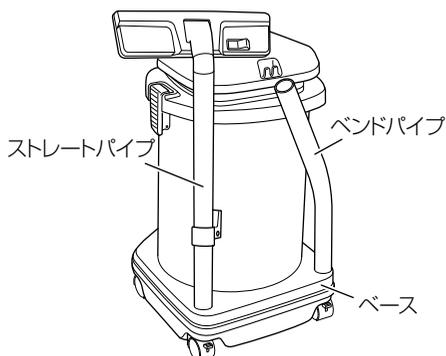
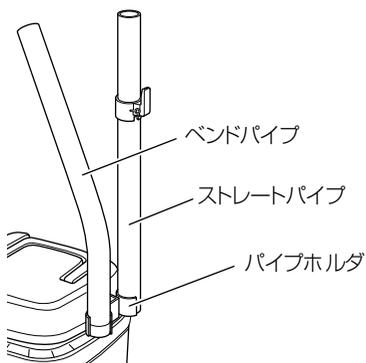
- 1 付属のパイプホルダを図のようにしてフック部に取付けます。



- 2 掃除の途中で作業を中断したいときは、パイプハンガをパイプホルダに引っ掛けてください。



- 3 機体を収納するときは、図のようにパイプをパイプホルダにさし込むとコンパクトに収納できます。



# 保守・点検

## ⚠ 警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ぬれた手で作業しないでください。  
感電やけがの原因になります。
- 粉じんが舞い上がることがありますので、防じんマスク、保護メガネを使用してください。

- 注**
- 各フィルタは消耗品ですので、予備品を準備することをお勧めします。
  - 各フィルタは定期的に点検し、破れ、穴がある場合は、交換してください。  
そのまま使用すると、機体損傷の原因になります。

## ●フィルタの手入れ

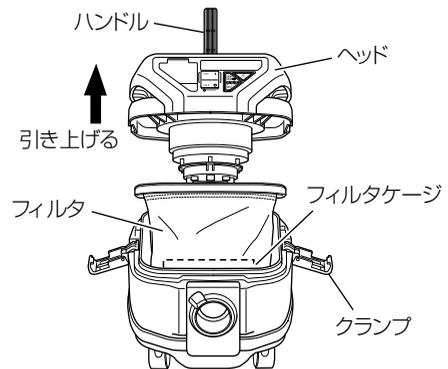
### RP 80YB、RP 150YB の場合

フィルタが目詰まりしますと、吸込力が著しく低下しますので、フィルタに付着した粉じんは、こまめに取り除いてください。

ちり落としの仕方は、フィルタケージを持って、布フィルタを軽くたたきます。

水にぬれた布フィルタで粉じんを吸引すると、すぐ目詰まりして吸引力が低下します。

布フィルタは、陰干しして十分乾燥させてから使用してください。



## RP 80YD、RP 150YD、RP 250YD、RP 350YA の場合

粉じん用フィルタ、プレフィルタ、クロスフィルタ、フィルタダンパが目詰まりすると、吸込力が著しく低下しますので、付着した粉じんは、こまめに取り除いてください。

① ちり落としは、プレフィルタ、クロスフィルタ、フィルタダンパを手で軽くたたきます。圧縮空気を吹きかけると簡単に行えます。

② 粉じん用フィルタはブラッシングや圧縮空気を吹きかけて清掃をします。

粉じん用フィルタは定期的(1～2か月に1回以上)に水洗いによる清掃を行い粉じん除去してください。

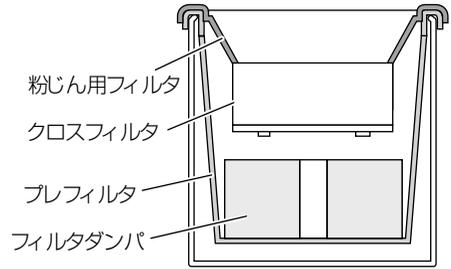
なお、水洗い後は、陰干しして十分乾燥させてから使用してください。

**注** • プレフィルタは、目詰まりがひどい場合でも軽くたたく程度にしてください。

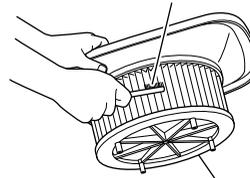
ブラシで強くこすったりすると寿命が短くなります。

• 粉じん用フィルタは、たたきつけたりしないでください。

樹脂部が割れる原因になります。



ブラシ等により、粉じんをかき落としてください。



水を流し、粉じんを洗い落としてください。

## ● 本体はきれいに

石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。  
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類は変形の原因になるので使用しないでください。

## ● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。  
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。  
異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

## ● モーターの取扱いについて

モーターに、油および水をつけないよう十分注意してください。

## ● 製品や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
  - 軒先など雨がかかる場所、湿気のある場所
  - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
  - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所







# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ  
お問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理  
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00～12:00, 13:00～17:00	
●フリーダイヤル  <b>0120-20-8822</b>	※携帯電話からはご利用になれません。 携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。 ※長くお待たせする場合があります。 お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点  
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>